

# いそくじ 以速寺通信

2004/8 第22号  
真宗大谷派三鏡山以速寺 発行

## 今年も「お盆」が巡って来ました



「汚泥華」(おでいけ)とは、

『経』(維摩経ゆいまきょう)にのたまわく

「高原の陸地には蓮華を生ぜず。

卑湿の汚泥にいまし蓮華を生ず」と。

これは凡夫、煩惱の泥の中にありて、菩薩(ぼさつ)のために開導せられて、よく仏の正覚(しょうがく)の華を生ずるに喩ふ

(『教行信証』 親鸞聖人)

綺麗な蓮は、泥沼だからこそ咲くことができず。親鸞聖人はこの蓮の花こそが私が救われていく姿だとおっしゃいます。

このどうにもならない私だからこそ、救ってくださる仏のはたらきがあるのです。

そして、実にありがたいことに、法蔵菩薩(ほうぞうぼさつ)は、私を救つことのみを誓いとして修行され、その誓いが成就して阿弥陀如来と成られたのです。

## 「正信偈」を読む

その参

### 阿弥陀如来誕生

法蔵菩薩因位時 在自在王仏所  
覩見諸仏浄土因 国土人天之善悪



#### 読み方

法蔵菩薩（ほつぞうぼさつ）が因位（いんに）の時、自在王仏（せいじざいおつぶつ）のみもとにましまして、諸仏の浄土の因、国土人天之善悪を覩見（とけん）し、（以下次回）

#### 内容

仏説無量寿経によると、はるか遠い昔、とある王子が自在王仏という仏の教えに感動し、全てを捨てて出家し、法蔵菩薩と名がつけられました。この法蔵菩薩こそ、阿弥陀如来がまだ仏になる前の修行時代（因位の時）のお姿であります。

そして、法蔵菩薩は速やかに仏になって全ての生きとし生けるものを救う「浄土」（仏の国）を造りたいと願いました。

そこで、自在王仏に教えを請い、様々な仏が作った浄土が、どのようにして作られ、その長所と短所、また、その浄土にいる人の長所と短所を見てまわりました。

ここからは、仏説無量寿経を根拠とした内容で、最初は阿弥陀如来について述べられます。

親鸞聖人は、阿弥陀如来とは、色も形もない、私たちを救ってくださいと働きそのもの「だと教えてくださいます。しかしここでは、経典にある、阿弥陀如来が法蔵菩薩と名の修行時代のお話を述べられます。それは、お釈迦様が王子を捨てて出家したことになぞらえた物語ともいえます。

ちなみに、経典の中で、法蔵菩薩が自在王仏をたたえる歌が、「こうげんぎぎ」ではじまる「嘆仏偈」です。

さて、この神話ともいえるような物語から、私達が学ぶべきことは数多く

ありますが、一番大切なことは、阿弥陀如来が誕生した根拠が、私達すべての生きとし生けるものを救おうとした「願い」であるということではないでしょうか。

つまり、私達が知っている有史以前ではあるかにしのぐ太古から、阿弥陀仏は私達を救うことのみを目的として、誕生したといえるのではないのでしょうか。

また、阿弥陀仏の前身である法蔵菩薩は、独力で修行をしたのではなく、自在王仏という師に出会って、それを成し遂げたということなのです。

それは、私達を救いたいと願う連綿たる歴史が、法蔵菩薩以前から続いていることをあらわします。この大きな歴史に支えられて、私を救うという事業が成し遂げられたといえます。

言い換えるならば、私が意識するより遙か以前から、私を救おうとするはたらきは準備されているのです。



住職

# 特集 お盆のお飾り

お盆を迎えるにあたっては、お内仏（お仏壇）を綺麗にし、お盆のお飾りをしましよ。



まず、ほこりなどは毛ぼつきなどで軽く払い、漆塗りのところは、柔らかい布などで拭きます。なお、金箔の部分は毛ぼつきではらう程度にし、他の金属の部分も素手では触らないようにしましよ。

さて、お盆のお飾りですが、平常のお飾りに涼しげな打敷（三角の布）をかけ、小餅を一对おそなえます。下図参照）  
また、小餅以外のお供えものは、お内仏（お仏壇）の外にそなえまじよ。

ところで、お盆は正式には盂蘭盆会といひます。インドの言葉の「ウランバナ」を漢字に当てはめたものです。

そもそも、釈尊のお弟子目蓮尊者（もくれんそんじや）が、「馳走をもって僧たちを供養し、その功德によつて餓鬼道におちて倒懸の（うつけん＝逆さに吊るされる）苦しみをうけている母を救った」といふ経

説が行事になったものです。

ところが、今日では、「ご先祖の霊を迎え入れ、ご先祖のために功德を積み、再びあの世へお見送りをする。」という考え方が付加されているようです。

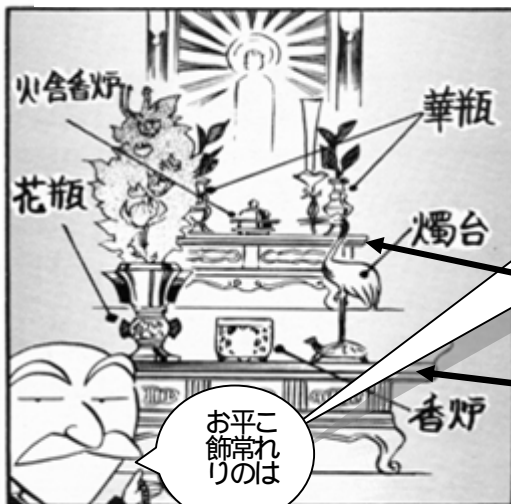
しかしお念仏の教えに出会われた亡き人は、ふわふわと、迷われているわけではなく、むしろお浄土から私達に、「大丈夫ですか、倒懸（天地が逆）になっていませんか、頼りにならない物を大切に、本当に大切なことをないがしろにしていますか？」と絶えず心配される、「諸仏（しよぶつ）」の一人になっておられます。

ですから、私たちは、霊が迷わないようにと迎え火や送り火をしたり、精霊流しをする必要はありません。



お盆といつご縁を、ご先祖亡き人を偲び、お墓参りとともに、心静かにお内仏（お仏壇）の前に座り、お念仏の教えにわが身をたずねていくという、本来の姿としたいものです。  
詳しくは、どのお気軽にお尋ねください。

## 参考 平常のお飾りです



お盆には、平常のお飾りに、打敷を掛け、一对の小餅をおそなえまじよ。  
お花も蠟燭も一つずつです。

上卓用打敷

前卓用打敷

お平小飾りのは



## 以速寺行事の御案内

### うらぼんえ 盂蘭盆会

お盆のお勤め（盂蘭盆会）をいたします。

8月15日 午後7時30分から 法話 住職

\* 本堂収骨を内陣へ移動してお勤め（読経）します

### ひがんえ 彼岸会

秋分の日にお彼岸のお勤めをいたします。

9月23日 午後7時30分から 法話 住職

\* 本堂収骨を内陣へ移動してお勤め（読経）します

彼岸会はお中日の23日にお勤めしますが、お彼岸は9月20日から26日までとなります。

本堂はいつでも開けております。どうぞご自由に参拝ください。

### ほうおんこう 報恩講

親鸞聖人の毎年の法要を勤めます

これは、門徒にとって一番大切な行事です。

1 1月2日（火） 午後2時から お勤め 法話

午後7時から ごでんしょうはいどく 御伝鈔拝読 法話

3日（水） 午後2時から お勤め 法話

報恩講法話の講師は松原市のよしがみよしたか由上義孝師です

### 編集後記

前回から、正信偈を少しずつ読み進めようと努力しておりますが、思った以上に大変な作業となっております。

あらためて読んでみますと、数行の漢文の中に、予想以上の内容が凝縮され、輝きを放っています。読めば読むほど深みが増すと同時に、わかったつもりになっていることが実に多いと教えられています。

さて今回は、お盆の特集ページを作りました。どうぞ御参考にしてください。

なお特集ページに、お盆のいわれを少し書きましたが、大切な事は、亡き人が諸仏（しよぶつ）となつて「大丈夫ですか、天地が逆になっていませんか、頼りにならない物を大切にしないで、本当に大切なことをないがしろにしていますか？」と絶えず私を心配されているということではないでしょうか。

どうぞお盆には、故人を偲び、諸仏となった故人の勧めにしたがって、心静かにお念仏の教えに私の姿をたずねてみてください。

住職 竜磨